

社会保険労務士からの三方一両得だより

平成29年12月20日 第99号

技能五輪を見に行ってきました

先月開催された技能五輪を見に行ってきました。当事務所では製造業のお客様には、スタッフの方の技能検定受験をお勧めすることが良くあります。しかし自分自身で受験したことはありませんので、実技試験がどのように行われるのか全く想像ができませんでした。技能検定と技能五輪では少し違うのでしょうか、少しでもその雰囲気を感じ取ることができればと思い、3つの会場をハシゴしました。

まずは上三川町で曲げ板金と自動車工と自動車板金。日産自動車の施設を使っていますので、車関係ばかりです。度肝を抜かれたのは自動車板金。ハンマーで鉄板をたたく音と振動



一般人は少ないです。

が、体育館の外まで地響きとなって伝わってきました。全身を使ってハンマーを振るう様子は迫力満点でした。車メーカーの選手が多く、その周辺には揃いの企業ジャンパーを着た上司、同僚と思われる人が山のようについて、そこにも驚きました。

続いて宇都宮市で旋盤、フライス盤。こちらは会場に



審判が目の前にいます。

入った瞬間にお昼休みに入ってしまったため、観戦は諦めて設備の見学だけして終了です。

色々な仕事の様子を見ることができて勉強になりました。子供達にとっては、将来の仕事選びの参考になると思うのですが、子供の姿をあまり見かけることが無かったのが残念です。



畑では立派な大根がとれました。

我が家の畑

近所に借りている畑と、庭の畑の両方で大根を育てています。

畑は朝からずっと陽が当たっていますが、庭は昼前からしか陽があたりません。耕し具合はどちらも同じ程度。肥料は一切入れていません。

畑では今月上旬からそろそろこの太さの大根を収穫できましたが、庭の大根はまだまだ収穫の時期ではないようです。

今更ですが、太陽がすごいですね。南向きの土地が高いのもうなずけます。

◆企業における「働き方改革」の現状と

時短ハラスメント

2016年8月の第3次安倍第2次改造内閣の発足と同時に「働き方改革」がスタートしてから、およそ1年半が経過しました。

政府においては、法整備に向けた動きが見られます。では民間企業においては、「働き方改革」は進んでいるのでしょうか？

8割のビジネスパーソンが「働き方改革」実感せず

今月、一般社団法人日本能率協会は、意識調査「ビジネスパーソン 1000 人調査」【働き方改革編】を公表しました。

同調査によれば、「職場での『働き方改革』を実感していますか？」という質問に対し、80.7%の人が「実感していない」と回答しています。一方、職場での「働き方改革」を実感している人がその理由として最も多く挙げた回答(複数回答)は、「残業が減った」(38.0%)でした。とはいえ、単純に残業を禁止すればよいとも限りません。一方的な残業禁止は「ジタハラ(時短ハラスメント)」と言われかねません。こんなものまでハラスメントかというご意見もあるでしょうが、そんな時代だと受け入れるしかありません。

手帳市場でシェア1位の高橋書店が11月に公表した「働き方改革」に関するアンケート調査では、「自分が勤めている会社で働き方改革(長時間労働の改善)が行われている」というビジネスパーソンのうち、41.5%が働き方改革で困っていることとして、「働ける時間が短くなったのに、業務量が以前のままのため、仕事が終わらない」ことを挙げました。

同調査は、この結果を『働き方改革』に取り組む企業のビジネスパーソンの4割がジタハラ被害につながる悩みを抱えている」と表現しています。

現場に即していない、一方的な残業禁止は「ハラスメント」とみなされる時代なのです。



ジタハラは往々にして「隠れ残業」(持ち帰り残業など)の温床となります。隠れ残業は、企業にとっては残業代抑制につながりますが、従業員にとっては手取り収入の減少に直結するため、労働意欲を低下させ、様々な不正やトラブルの遠因ともなりかねませんので、要注意です。